

令和2年度 北区立ふくろ幼稚園経営報告書

令和3年1月13日

北区立ふくろ幼稚園長 篠澤 恵理

1 学校経営計画に基づく主な取組と評価

(1) 教育活動への取組と評価

主な取組	評 価	
<p>① 学びの連続性を踏まえた教育内容の充実と指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師による運動遊びを年10回実施するなど、預かり保育での運動遊びの充実を図った。学年間の連携を促しながら、園児が継続して体を動かす楽しさを感じ、粘り強く取り組むたくましさを学び合えるようにした。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を週案や毎日の反省の中で関連付けて示し、学びのつながりや指導計画の改訂を意識した保育を実践した。 	<p>努力 5 成果 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 園評価の「幼稚園の教育内容」「教師の指導力」「行事」「家庭連絡」「子育て支援」「施設設備」において、肯定的な回答をした保護者は、90%~100%であり、教育内容や指導に理解が得られた。「分からない」を0にし、今後も指導力向上を図る。 「新型コロナウイルス感染症対策」について肯定的な回答をした保護者は100%であり、行事の改善についても理解を得た。 「危機管理」については、けがや台風時の連絡についての指摘が1名あり、すぐに対応したが、今後の周知方法に課題が残り、教職員の意識を高める必要がある。
<p>② 日常的な異年齢交流を生かした、人と関わる力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回の異年齢昼食交流や、週1回以上の異年齢での運動遊びを実施した。 未就園児の会や幼稚園開放日など、園児との交流の機会を増やし、人と関わる楽しさを感じられるようにした。 毎日の動植物の飼育・四季ごとの花や野菜の栽培活動を通して、思いやり・生命を大切にすること、自立心・道徳性の芽生えなどを育てた。 	<p>努力 5 成果 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 少人数園としてのよさを生かし、日常的な交流の定着が図れた。 相手に応じて言葉を交わしながら関わるやり取りを引き出し、さらに定着させる。 飼育や野菜栽培の充実を図り、直接体験の機会を豊かにもつことができた。 「日常的な異年齢交流や遊びを大切にした教育内容は適切である」と肯定的な回答をした保護者は、90%である。残りは、「分からない」と回答しており、今後さらに情報発信回数や方法の改善を図る。
<p>② 教育内容の発信と子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 園長だより「笑顔」を年10回程度発行して幼稚園の教育内容を具体的な事例を例に挙げて伝えた。 年2回の個人面談、年3回の保護者会・学級懇談会を実施した。 月1回のスクールカウンセラー相談日、年4回の臨床心理士相談日、臨時休業期間中の電話連絡や図書利用の機会などを通して、子育ての悩みを気軽に相談できるように設定した。 	<p>努力 5 成果 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「園だよりや保護者会を通じて、教育目標や教育内容を分かりやすく伝えている」と肯定的な回答をした保護者は、95%である。 「懇談会や面談で、子どもの様子を詳しく知らせている」と肯定的な回答をした保護者は、95%である。 「子どものことを相談すると、適切に応じてくれる」と、肯定的な回答をした保護者は、100%である。 「幼稚園での遊びのことや、友達のことをよく話してくれる」と肯定的な回答をした保護者は、85%である。95%を目指す。 保護者が、子どもへの関わり方や、子育ての考え方を学び、子育ての喜びを感じたり、悩みを共有して早期解決につなげたりする機会となり、信頼関係が深まった。

(2) 重点目標への取組と評価

主な取組	評 価	
<p>① 個を尊重し、一人一人のよさを生かした園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内研修研究保育を年1回、特別支援研修を年4回実施して、幼児理解を深めた。 日常的に教員間の対話を重ねて個別の支援を共有し、学級経営にも生かした。 	<p>努力 5 成果 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「一人一人に応じた指導をしている」と肯定的な回答をした保護者は100%である。 特別支援児への具体的な対応について、すぐに共有できる教職員の連携体制が構築され、毎日の振り返りを受けて日々改善できた。
<p>② 学びの見える園づくりを通して、家庭の教育力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 月2回以上、日頃の園児の様子・行事や活動の意味等をホームページに掲載した。 「育てたいねらい」や「学びの連続性」など、幼児に必要な経験や育ちについての教育内容を、学級だよりで年10回以上、家庭・地域へ積極的に発信した。 	<p>努力 5 成果 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「幼稚園から出す印刷物やホームページは、分かりやすい」と肯定的な回答をした保護者は、100%である。 「教育活動への協力は、子どもを理解するよい機会である」と肯定的な回答をした保護者は、95%である。 学級だよりやホームページなどの情報を媒介に、家庭での子育ての状況が把握でき、家庭と連携した子育てが推進できた。
<p>③ 夢中になって遊ぶ幼児の育成と教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児自ら関わりたくなり、知的好奇心を膨らませる教材を開発して計画的に週案に記載し、毎月の環境構成を改善した。 朝会や週案会での共通理解、互いの保育を積極的に見合う、ドキュメンテーションを利用して意見を交わすなど、「日常的な園内研究」を実施した。 	<p>努力 5 成果 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> 園児が「幼稚園に行くのを楽しみにしている」と肯定的な回答をした保護者は100%である。 夢中になって遊ぶ幼児を育てる要因となる環境構成について、週案で意識できたことは、日々の反省に生かされ、PDCAサイクルの定着につながった。 保育の一場面を見ながら教員間の意見交換が活発にできる体制が整い、個々の実態に応じた対応を学び合えた。
<p>④ 教員の働き方についての意識改革と、計画的・効率的な職務遂行の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議内容の精選、データ・書類整理により、効率的な職務分担を計画的に行った。 退勤時間の意識化を促し、在園時間（概ね10時間以内）・休暇取得の促進等、教員の時間管理意識を高めた。 倉庫や棚の整理、物の置き場の整頓、在庫管理、動線の見直しを行った。 	<p>努力 4 成果 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 早期立案・業務分担に努め、進捗状況を共有しながら、チーム力を生かした運営ができた。 在園時間の平均は、昨年度より大幅に減少し、定時退勤日が増加した。 物の定位置が明確になり、仕事の効率が上がった。 休暇取得が計画的に実行されるとともに個々の時間管理意識が高まった。

2 次年度以降の課題と対応策

- 幼児の見方・考え方を広げる豊かな教育内容の推進と指導力の向上
 - 幼児が人や物との対話を通して、考えたり表現したりする楽しさを感じる機会を日常的に設定し、深い学びを意識した教育内容の充実を図る。
- 保護者間の連携を深め、家庭の教育力向上を支える子育て支援の充実
 - 保育ボランティアや懇談会など、保護者同士が学び合いながら幼児理解を深め、親子の絆を感じられるようにする。
- 教員の計画的・効率的な職務遂行の定着と、定時退勤の推進
 - 業務内容の役割分担や進捗状況の早期把握に努め、時間短縮に向けた環境を改善する。